

令和2 (2020) 「虚子と碧梧桐展 I」

会期変更のお知らせ

このたびの新型コロナウイルスの流行と臨時休館を設けたため、本年度企画展示「虚子と碧梧桐展 I」の会期を、令和3 (2021) 年3月7日 (日) までに変更させていただきます。

10月に発行を予定しておりました次号館報は休刊させていただきます。
 次回館報は令和3 (2021) 年4月を予定しております。
 なにとぞご了承くださいますようお願いいたします。

虚子記念文学館



虚子短冊「鼓あふる夏の火桶やとどきす」
明治三十五年五月二十日

虚子短冊「石よりも古りし茶の木と咲きにけり」
明治三十九年十月

虚子短冊「三世のほどけ皆坐にあれば寒からず」
大正五年十月十日

虚子短冊「草摘みし今日の野いたミ夜雨来る」
大正五年

虚子短冊「打ぞめや喜野九郎兵衛ここに在り」
大正五年

虚子短冊「水仙を挿みし日より突れけり」
大正五年十月十日

虚子短冊「此松の下に始めば露の我」
大正五年十月十日

虚子と碧梧桐 I

令和2年
4月1日 来

令和3年
3月7日 回



子規句稿「寒山落木」から「子規句集」へ掲載する句を撰ぶ
 虚子(右)と碧梧桐
 明治42年3月6日



碧梧桐短冊「再びせむの渡り帆も鳴る空や」
明治四十五年五月二十日

碧梧桐短冊「湾の曲り離れに牡蠣の岩」
大正六年十月

碧梧桐短冊「ゆふ眠れず朝の桜見せ」
大正六年四月

碧梧桐短冊「酔つてもたれて正月の屏風」
大正七年四月

碧梧桐短冊「青空ほるもの 朝の花の下」
大正七年四月

碧梧桐短冊「そこの山の共りの塔をみかすまにあらず」
大正七年四月

碧梧桐短冊「散る頃の桜隣もなき誘ひ来る」
大正七年四月

公益財団法人 虚子記念文学館

〒659-0074 兵庫県芦屋市平田町8-22 電話(0797)21-1036/FAX(0797)31-1306

■休館日
月曜日(祝日の場合閉館、翌日火曜日休館)
4月30日、5月7日

■入場料
一般…500円 18歳以下…300円

■貸会議室有 (要予約)
A 1,500円/時、B 1,000円/時、フルスペース 2,500円/時

■交通
阪急、阪神、JRの芦屋駅より阪急バスにて「テニスコート前」で下車。鶴塚橋を渡り、南西へ徒歩10分。
阪神芦屋駅西口より芦屋川西岸を徒歩15分。※駐車場有(4台)

